

緑橋駅(地下鉄中央線・今里筋線)

千間川跡沿いの町屋と古民家を訪ねて



「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.024

地下鉄緑橋駅

①町屋再生複合施設・燈

あかり
燈は、平成20年(2008)にオープンした町家再生複合施設です。大正初期に建てられた空き家の木造町屋を改装したもので、内装や欄間、障子の建具、ガラスなどに大正ロマンが息づいています。



②千間川跡と緑橋の碑

千間川は明治初年(1868)、農用水と農作物などを舟で運ぶ水利のために開削された人工の川で、平野川より河内高井田までを結びました。名前の由来は川幅が約10メートル、延長が千間(約1.5キロ)あったことにより、20余りの橋が架かり、緑橋もそのひとつでした。しかし周辺地区の都市化とともに水田が消滅、灌漑用水路としての使命を終え、川の汚濁も著しく進んだことから水運としても利用されなくなり、昭和42年(1967)から順次、埋め立てられました。跡地は緑陰道路として整備され、公園も設けられています。

③南中浜子安地藏

もとは大阪城内の「蓮如上人袈裟懸の松」の脇にあったものですが、明治18年(1885)の淀川大洪水の折に平野川に流され、この地に流れ着いたものです。当
地に流れ着いたのも何かの縁と

いうことで、祀られることになりました。昔から安産地藏、子安地藏として多くの参拝者が絶えず、この地でお祀りしてからも同様の功德があったと伝わります。

④Carpe Diem(カルペ・ディエム)

ラテン語で「今を生きよ」という意味です。300坪の日本庭園を有する築60年の民家で、ゲストハウス、イベントスペース、国際文化交流の場として利用されています。

⑤白山神社

しらやま 白山神社は菊理媛神を祭神としています。応永年間(1394~1427)から中浜・鴨野・森の諸村の氏神でした。石山合戦や大坂の陣の戦災に遭いましたが、元和3年(1617)、大坂城代・内藤紀伊守により再建されています。境内にあるイチヨウの木は市内で一番大きいもので、幹まわり約

5メートル、高さ約23メートルの名木です。大坂の陣では本多忠朝がこの木で物見したといわれています。



⑥中浜菁莪塾旧跡(正圓寺)

寺子屋・中浜菁莪塾は嘉永元年(1847)、正圓寺の住職が本堂を中浜の子供や、壇信徒の学びの場として開放したことに始まります。明治5年(1872)、中浜校を設置し、明治14年(1881)には民家を借りて学舎としました。しかし、明治18年(1885)の淀川大洪水で全村が水没し、学舎も大破して、自然と廃校となりました。

地下鉄緑橋駅

